

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達 まるまるクラブ		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 19日		R8年 1月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	5
○従業者評価実施期間	R8年 2月 2日		R8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアの必要な子ども、重症心身障害のある子どもの受け入れを行っている。	関係のある機関と連携をとり支援を行っている。	担当者会議等に参加し関係機関との連携をとる 職員の支援技術の向上を図る
2	利用児が楽しく参加できる活動を行なっている。	幅広い年齢層や特性に応じて参加できるような活動を取り入れている。 活動が画一的にならないよう屋内、屋外それぞれの活動も取り入れている。	児発と放デイの多機能型を生かした活動をもっと工夫して行っていく
3	老人ホーム併設で幅広い年齢の方と交流ができる。	お誕生日会や季節の行事(運動会、おもちつき等)を実施した場合は、連絡帳や口頭で活動の様子を保護者に伝えている。	事業所と合同の活動プログラムを計画していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等、保護者同士の連携を支援	保護者同士が交流できる場が少ない	保護者会など、保護者が交流できる場を設け、広報していく
2	子供の特性に応じた個別支援の充実	職員の質の向上及び研修	積極的な研修の場への参加 職員のスキルアップ
3	災害訓練やBCP訓練の実施が保護者に知られていない。	保護者への連絡不足	通信に記載し、災害訓練を実施した日には、連絡帳に記載し、送迎時に保護者にお伝えしていく。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達 まるまるクラブ		公表日		R8年 4月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		子どもの特性に合わせて活動スペースを分けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用者数に合わせて職員配置を行っている		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		室内はバリアフリー化されており、子どもの特性に応じて活動スペースを分けている。	バギーの利用児や障がいの特性に合わせてスロープを設けるなど、バリアフリー化を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		利用児が帰宅後毎日清掃を行い、清潔を保持している。	今後も衛生面の保持と環境づくりを継続していきたい	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じてパーテーションで区切って、一人の空間を作るようにしている。	今後も過ごしやすい環境を整えていきたい	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		活動の前後に話し合いを行い、業務の改善を図っている。	アンケートの結果を踏まえ、支援内容の検討を行う	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意向を把握し、話し合いを行い業務改善をおこなっている	評価表をもとに検討し、業務改善を行っている	
	8	職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングを行い、意見を出して業務改善につなげている	今後も継続し、改善につなげていきたい	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月に一回内部研修をおこなっており、外部研修にも参加している	今後も積極的に参加していきたい	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		毎年公表している		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		半年ごとにアセスメントを行い、ニーズや課題を挙げ、支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		アセスメントをもとに職員で話し合い、子供の状態を共有している		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画をもとにして個別に支援している		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメント表を使用している。また、気になった行動などは職員間で共有している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		保護者や関係機関と情報を共有し、それをもとに具体的な支援内容を立案している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員全員で話し合い、立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員全員で話し合い、固定化しないよう様々な活動プログラムを提案し、子どもに合った楽しい活動を取り入れている。	子どもの特性に応じて対応している	

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの特性や状況に合わせて作成している	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		職員間で毎朝情報共有をし、漏れがない様に確認している	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には必ず振り返りを行い、情報共有をしている	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		一日の記録や個別の記録ファイルを作成し、今後の支援に繋げている	定期的に記録の見直しを行っている
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月に1回モニタリングを行い、定期的に計画の見直しを行っている	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や担当職員が参画している	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて保健所、子育て支、幼保と連携した支援を行っている	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		送迎時や会議の際に情報を共有し、相互理解を図り支援につなげている	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前の子どもの情報提供を行い、相互理解を図っている	
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		連携を図り、質の向上に努めている	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の公園を利用したり、子ども食堂を利用するなど交流が持てるように努めている	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や送迎時にその日の様子を伝え、共通理解を図っている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者からの相談には個別に対応を行っている	専門的な観点から支援が行えるように、研修に参加していきたい
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に行っている	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		送迎時、保護者にモニタリング等を行い、保護者の意見などを尊重して計画に反映させている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画書の確認を行い、同意を得ている	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		常時、相談を受け付けて、丁寧な対応を心掛けている	相談内容を職員間で共有していく

関係機関や保護者との連携

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		交流ができるように行事などの参加を促している	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れがあった場合は迅速に対応し、丁寧な対応を心掛けている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的に活動報告として通信を発行している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きロッカーに保管し、持ち出し厳禁としている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個人用の連絡帳を用意し、毎日の伝達を行っている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		お祭りなどに参加し、地域住民との交流を図っている	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成し、定期的に訓練を行っている。	保護者の方々に周知していきたい
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に避難、防災訓練を行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		保護者より連絡をもらい、その都度確認をしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在、該当する子どもはいないが、必要に応じて対応していく。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に研修や訓練を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		緊急時引き渡しカードを作成し、災害時は家族に迅速に連絡が取れるようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		職員間で話し合い、情報を共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		対象児には保護者に説明し、了解を得ている。	車椅子やバギー使用児は転倒防止のため、ベルトを着用している。	